

# 第 1 章 事業概要

## 1.1 業務目的

沖縄県の平成 28 年度における入域観光客数は約 877 万人（対前年+10.5%）と過去最高を更新した。観光の好調を受け、沖縄県では、全県の目標フレームを平成 33 年の観光客数 1,200 万人、観光収入 1.1 兆円と上方修正するなど取組を推進している。

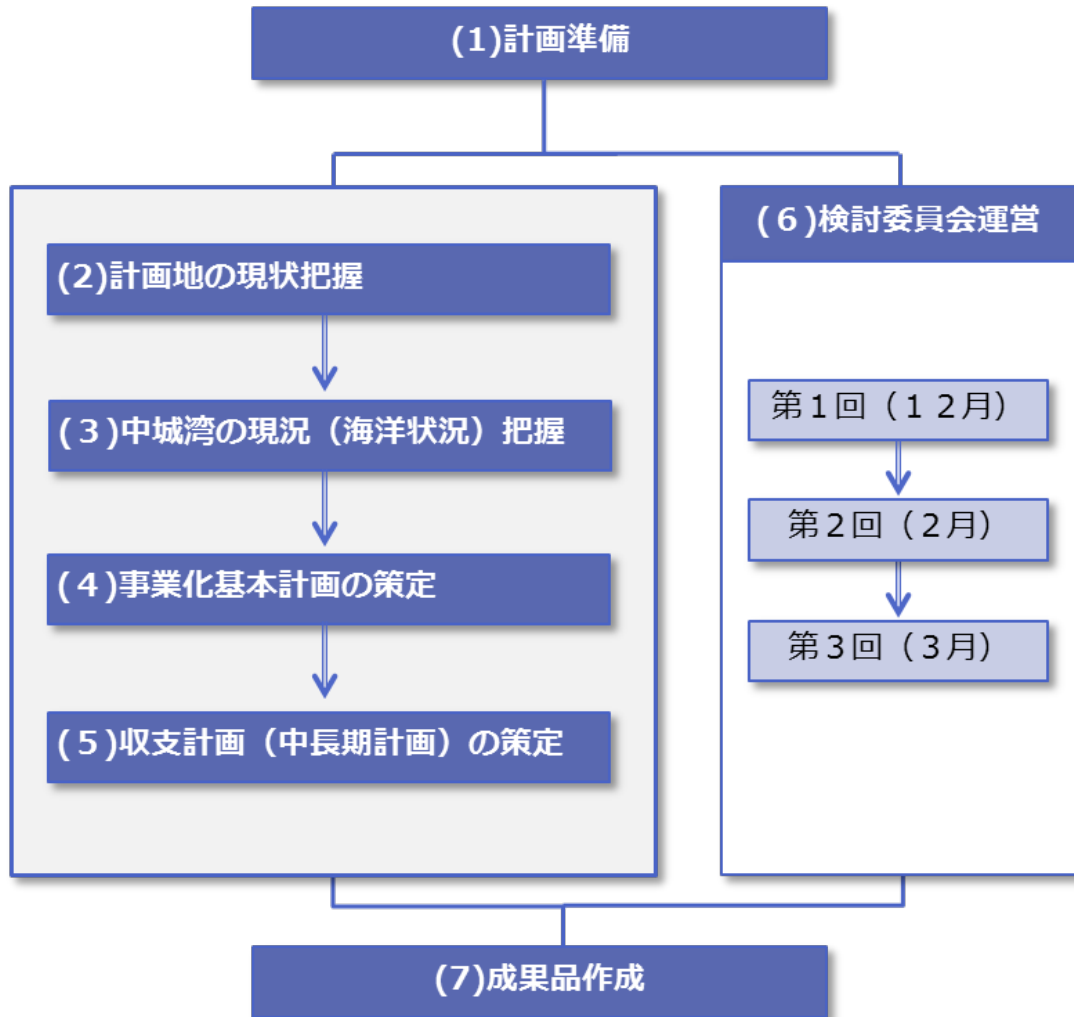
北中城村においてもこのような全県の状況も踏まえて、平成 28 年 5 月に観光振興基本計画を策定し、同年 8 月には観光協会が設立され、平成 29 年 3 月には観光協会が今後 3 年間で集中的に実施する施策を取り纏めたアクションプログラムを策定した。これらのもと、地域特性を活かした観光振興の取組を進めているところであるが、これまでの観光客に加え大型商業施設の開業、大型クルーズ船の中城湾港への入港、東海岸への大型 MICE 施設建設によるアフター MICE、これらによる観光客の増加等への対応を行うための更なる受入体制の整備が求められている状況にある。

北中城村観光振興基本計画では、観光の核となる基本理念を「豊かな時間を過ごせる『健康度世界一のむら』北中城村」としている。また、基本方針の一つである「多様で魅力ある観光体験の提供」の「文化（ヘリテージ・エデュケーショナル）ツーリズムの推進」の一環として、「グラスボート（以下、「水中展望船」）などを取り入れた海洋環境学習推進についての検討」が掲げられている。また、「歴史・文化」に関する強みにとどまらず、海洋資源の活用を図り、観光商品の多様化がこれまでの調査の中で指摘されてきている。

本業務では、来訪増加が期待される観光客に対し、体験学習型の観光メニューとして中城湾の海洋環境を活かした水中展望船事業の基本計画および事業性の検討を行い、村内の観光振興ならびに受入体制整備に資することを目的とした。

## 1.2 実施手順

本業務の実実施手順について以下に示す。



## 1.3 業務実施内容

本年度業務において実施した内容を以下に示す。

### 1.3.1 計画地の現況把握

#### ① 中城港湾（熱田地区）の現況把握

水中展望船の発着場の立地を想定する中城港湾（熱田地区）について、漁港施設の利用状況、在港する漁船隻数、土地利用状況ならびに土地利用計画、管理状況、漁港施設整備状況などの現況を取りまとめた。

現状把握から、発着場整備に係る問題点を抽出し、解決すべき課題を整理した。

#### ② 港内静穏度

深淺測量や地形などを整理し、港内静穏度の解析を実施した。

#### ③ 中城港湾（熱田地区）の整備計画

発着場の浮棧橋及び管理施設、駐車場やその他必要な施設等について配置および規模を設定した。

### 1.3.2 中城湾の現況（海洋状況）把握

海洋体験の対象である中城湾の海洋環境（魚種、生物、海底地形など）や景観スポットについて、文献やヒアリングにて調査したうえで、グラスボートによる現地調査を実施し、就航計画に係る部分について整理および評価を実施した。

### 1.3.3 事業化基本計画の策定

#### ① 県内外の水中展望船の事例検証

県内外の水中展望船およびグラスボート事業の導入事例（9件程度）を調査し、北中城村に適した水中展望船について検討した。

#### ② 来訪客に対する水中展望船の利用意向に関するアンケート

北中城村村内への来訪者および観光案内所の来訪者に対し、村内における水中展望船の利用意向を把握するためにアンケート調査を実施した。

#### ③ 実施計画の策定

他地域事業者への事例検証や、村内関係者および観光関係者へのヒアリングを実施し、コンセプトの設定や、利用が想定されるターゲットとその利用者数を推計し、就航計画（定員、就航ルート、就航時間、便、数、メンテナンス、燃料補給等）を設定した。

なお、計画の策定にあたっては、広域のルートも策定した。

#### ④ 水中展望船のイメージ

県内外の水中展望船の事例や北中城村および中城湾の歴史を踏まえ、船型イメージを設定し、外観やカラーリング案を示した。

#### ⑤ 水中展望船と連携したブルーツーリズムプログラム

中城港湾（熱田地区）の特性を踏まえた上で体験プログラムを提案した。水中展望船やその他複数のプログラムを一定のテーマを軸に構成したツアー化に向けての検討を行った。

### 1.3.4 収支計画（中長期計画）の策定

#### ① 収支計画の検討

運営主体を想定して、初期投資額である船艇購入費、港湾施設及び付属施設（チケット売り場、売店等）の整備費、経常経費となる事務経費、維持管理費、人件費について、船のドック入り期間を考慮した運営計画を基に収支計画を検討した。

検討にあたっては、利用者や客単価などについて事例を参照した。

#### ② 事業手法の検討

施設整備における補助事業等の抽出、運営手法（直営、委託、指定管理等）の検討を踏まえ、最適な事業手法を選定した。

### 1.3.5 検討委員会運営（北中城村マリンビジョン検討委員会設置）

本検討を進めるにあたり、関係者や有識者からなる検討委員会を3回開催し、委員会資料・議事録作成などの運営を行った。